

科目名	医学英語						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	和田 尚久		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	英語の医学論文に慣れ、読解力を身につける。同時に、生体各組織の機能や疾患について理解し、医学的な英単語を覚えることを目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				医学的な英単語にふれ覚える	
	○	○				医学的な英単語の知識を利用し英語の医学論文に多くふれる。	
	○	○				英語の医学論文を臨床に利用できる。	
テキスト・教材 参考図書	医学書院 「やさしい医学英語 Introduction to Medical English」 編集一青野淳子、執筆一青野淳子、Daniel P Considine						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Introduction; Chapter 2-1: Circulatory System			配布プリントをもとに復習しておく		
	2	Chapter 2-1: Circulatory System			配布プリントをもとに復習しておく		
	3	Chapter 2-2: Disorder of the Circulatory System			配布プリントをもとに復習しておく		
	4	Chapter 4-1: Respiratory System			配布プリントをもとに復習しておく		
	5	Chapter 4-2: Disorder of the Respiratory System			配布プリントをもとに復習しておく		
	6	Chapter 5-1: Digestive System			配布プリントをもとに復習しておく		
	7	Chapter 5-2: Disorder of the Digestive System			配布プリントをもとに復習しておく		
	8	Chapter 6-1: Urinary System			配布プリントをもとに復習しておく		
	9	Chapter 6-2: Disorder of the Urinary System			配布プリントをもとに復習しておく		
	10	Chapter 10-1: Reproductive System			配布プリントをもとに復習しておく		
	11	Chapter 10-2: Disorder of the Reproductive System			配布プリントをもとに復習しておく		
	12	Chapter 12: Examinations 1-4			配布プリントをもとに復習しておく		
	13	Chapter 12: Examinations 5-8			配布プリントをもとに復習しておく		
	14	Chapter 13: Treatments 4,5; Review			配布プリントをもとに復習しておく		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	佐々木 奈津子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				小児に疾患について基礎的な考え方を説明することができる。	
	○	○				それぞれの疾患についてその機序と症状を理解し概略を説明することができる。	
	○	○				小児の身体的働きと特徴について理解すると共に、発達の経過について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	小児科学概論			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	2	新生児・未熟児疾患			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	3	先天異常と遺伝病			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	4	神経・筋・骨系疾患			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	5	循環器疾患			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	6	呼吸器疾患			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	7	感染症			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	8	消化器疾患			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	9	内分泌・代謝疾患			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	10	免疫・アレルギー・膠原病			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	11	腎・泌尿器系・生殖器系			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	12	腫瘍性疾患			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	13	心身症・神経症・重症心身障害児			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	14	眼科・耳鼻科的疾患			教科書と配布プリントをもとに復習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	臨床神経科学						
科目名(英)	Clinical Neurology						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	リハビリテーションにおける神経内科疾患の理解。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		神経内科疾患の理解ができる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート 参考文献: リハビリテーション医学における評価 リハ学会						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	頭蓋内圧亢進症とヘルニア					
	2	脳血管障害 I (疫学、分類、診断、症状)			前回の復習。予習。		
	3	" II (特異的な疾患、リハ)			前回の復習。予習。		
	4	認知症と脳機能(定義、DSM、分類)			前回の復習。予習。		
	5	脳腫瘍外傷性損傷			前回の復習。予習。		
	6	神経内科と脊髄疾患			前回の復習。予習。		
	7	変性疾患①(脊髄小脳変性症)			前回の復習。予習。		
	8	" ②(パーキンソン病と類縁疾患)			前回の復習。予習。		
	9	運動ニューロン変性と脳髄疾患			前回の復習。予習。		
	10	筋疾患(解炎筋ジストロフィー)			前回の復習。予習。		
	11	ギランバレー症候群、単神経麻痺、代謝性疾患(ミトコンドリアミオパチー)			前回の復習。予習。		
	12	重症筋無力症、周期性四肢麻痺			前回の復習。予習。		
	13	代謝性(小児)、脳性麻痺関連			前回の復習。予習。		
	14	神経内科における感染症			前回の復習。予習。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○			○		100%
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	富永 明子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	前期に学んだ臨床心理学の知識について、実践的プログラムを通して理解を深める。また、卒業後の現場において臨床心理学を活かしていけるために、他者とのかかわり や自分自身についての思考・感情・言動をふりかえり、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○				前期の知識をもとにさらに臨床心理について深め説明することができる。		
	○				臨床心理の基礎的な技法について実践することができる。		
	○		○		ワークを通して自己認識を深めることができる。		
	○		○		ワークを通して他者視点について考え態度に反映することができる。		
テキスト・教材 参考図書	臨床心理学 杉原一昭(監修)中央法規出版 参考文献:「自己主張トレーニング」ロバート・E・アルベルティ、マイケル・L・エモンズ(著)東京図書「アサーティブトレーニング BOOK」小柳しげ子、与語淑子(共著)新水社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	心理アセスメントの実際①－質問紙法				教科書をもとに復習しておく。予習プリントをもとに次の予習しておく	
	2	心理アセスメントの実際②－投影法				教科書をもとに復習しておく。予習プリントをもとに次の予習しておく	
	3	心理療法の実際①－カウンセリング				教科書をもとに復習しておく。予習プリントをもとに次の予習しておく	
	4	心理療法の実際②－集団心理療法				教科書をもとに復習しておく。予習プリントをもとに次の予習しておく	
	5	心理療法の実際③－認知行動療法				教科書をもとに復習しておく。予習プリントをもとに次の予習しておく	
	6	心理療法の実際④－描画療法				教科書をもとに復習しておく。予習プリントをもとに次の予習しておく	
	7	心理療法の実際⑤－芸術療法(コラージュ)				教科書をもとに復習しておく。予習プリントをもとに次の予習しておく	
	8	自己尊重ワーク				教科書をもとに復習しておくこと。また、本日のワークを振り返り自己認識を行う	
	9	傾聴トレーニング				教科書をもとに復習しておくこと。また、本日のワークを振り返り復習しておく	
	10	アサーティブ・トレーニング①				教科書をもとに復習しておくこと。また、本日のワークを振り返り復習しておく	
	11	アサーティブ・トレーニング②				教科書をもとに復習しておくこと。また、本日のワークを振り返り復習しておく	
	12	アサーティブ・トレーニング③				教科書をもとに復習しておくこと。また、本日のワークを振り返り復習しておく	
	13	アサーティブ・トレーニング④				教科書をもとに復習しておくこと。また、本日のワークを振り返り復習しておく	
	14	アサーティブ・トレーニング⑤				教科書をもとに復習しておくこと。また、本日のワークを振り返り復習しておく	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	レポート	◎	◎				30%
履修上の注意							

科目名	学習・認知心理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大森 晶子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	人間の認知の理解を深める。自分たちの認知過程を実習など通して理解する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				記憶のシステムと種類について述べるができる	
	○	○				認知システムと思考について述べるができる	
	○	○				トップダウン処理・ボトムアップ処理について説明できる	
	○	○				スキーマ構造、スクリプト構造について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	「情報処理心理学」中島義明 サイエンス社 参考文献:プリントにて配布						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	記憶のシステムと種類				教科書の該当部分を読んで復習する	
	2	ワーキングメモリー				教科書の該当部分を読んで復習する	
	3	展望的記憶、プライミング				教科書の該当部分を読んで復習する	
	4	視覚のメカニズムと認知				教科書の該当部分を読んで復習する	
	5	メタ認知と認知構造				教科書の該当部分を読んで復習する	
	6	論理的推論のメカニズムと実習				教科書の該当部分を読んで復習する	
	7	確率的判断のメカニズムと実習				教科書の該当部分を読んで復習する	
	8	演繹的思考・帰納的思考				教科書の該当部分を読んで復習する	
	9	創造的思考と実習				教科書の該当部分を読んで復習する	
	10	知覚と認知によるゆがみ トップダウン・ボトムアップ処理				教科書の該当部分を読んで復習する	
	11	スキーマ構造と情報処理				教科書の該当部分を読んで復習する	
	12	基準・概念・スクリプト構造				教科書の該当部分を読んで復習する	
	13	ヒューマンエラー 失敗				教科書の該当部分を読んで復習する	
	14	復習				復習にて得られた情報を利用しこれまでの内容をまとめておく	
15	まとめ				定期試験範囲をまとめておく		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	○	◎				10%
履修上の注意							

科目名	心理測定法						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	久保 健彦		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	ものの見え方、聞こえ方、記憶、そして発達や知能、学力などなどの人の「心理」を測るとはどのようなことなのかを学ぶ。また、心理測定法を言語聴覚療法にどう活用していくのかを考える。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				心理測定の概要を説明できる。	
	○	○				測定値の性質を説明できる。	
	○	○				データ解析方法を列挙し、それぞれを概説できる。	
	○	○				測定の方法を列挙し、それぞれを概説できる。	
テキスト・教材 参考図書	「新心理学ライブラリ13 心理測定法への招待 測定から見た心理学入門」市川伸一 編著, サイエンス社 参考文献: プリントにて配布						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	心を測るとは	心理測定とは／見え方を測る／記憶実験			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	2		ビネーの知能検査／投影法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	3		測定パラダイム／反応時間を計る			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	4	測定値の性質	尺度水準／相関と回帰			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	5		母集団と標本／信頼性と妥当性			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	6	データ解析	検定の考え方			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	7	多変量解析	各種の多変量解析			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	8	知覚を測る	調整法・極限法・恒常法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	9		マグニチュード推定法／評定法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	10	認知を測る	再生と再認／学習／判断・推論・問題解決			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	11	社会心理を測る	態度測定／ソシオメトリー／情動・気分			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	12	発達や知能を測る	知能検査・発達検査・学力検査／行動観察			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	13	心理アセスメント	観察法／面接法／心理検査法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	14	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
15	全体のまとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	言語聴覚障害総論Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	梶原 智寿		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	①S-S法の特徴の理解と実施手順の習得 ②S-S法の結果・解釈を学ぶ ③発達検査より評価を行い、子どもの全体像をとらえる						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				<S-S法>の特色について述べるができる	
		○	○			<S-S法>を手引きにのりって実施できる	
		○	○			<S-S法>の結果をまとめることができる	
		○	○			検査結果から、指導計画を作成できる	
テキスト・教材 参考図書	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査マニュアル						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	S-S法の枠組みについて／記号形式－指示内容関係について				マニュアルを読んで復習する	
	2	演習(段階3～4)				マニュアルを読んで復習する	
	3	演習(段階5)				マニュアルを読んで復習する	
	4	演習(段階2)				マニュアルを読んで復習する	
	5	演習(基礎的プロセス・コミュニケーション評価)／質問紙の活用				マニュアルを読んで復習する	
	6	サマリー2の記入方法				マニュアルを読んで復習する	
	7	サマリー1の記入方法と症状分類				症状分類の箇所を授業前に読んでおく	
	8	症状分類について				症状分類の箇所を復習する	
	9	検査結果と評価のまとめ方				結果のまとめについては、該当箇所を理解できるまで読み返す	
	10	症状分類ごとの働きかけの重点				テキストの該当箇所を復習する	
	11	訓練・指導について				テキストの該当箇所を復習する	
	12	〃				テキストの該当箇所を復習する	
	13	復習・ケース検討				症例について、グループで検討しておく	
	14	〃				症例について、グループで検討しておく	
15	まとめ				<S-S法>の理論と実施方法、まとめ方を一連の流れとしてまとめておく		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				100%
履修上の注意							

科目名	失語症Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	小川 春美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において 言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	・実技演習や症例の検討を通して評価後の問題点の把握・目標設定のプロセスを習得する。・失語症の訓練立案・治療の選択ができる。・失語症の目標に合わせた訓練の実施と再評価ができる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				失語症の訓練の基本事項について説明することができる。	
	○	○				失語症の言語症状を分析することができる。	
	○	○				失語症の検査結果からの分析をレポート作成できる。	
	○	○				失語症の訓練立案ができる。	
		○	○			失語症の下訓練を模擬的に実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	小嶋 知幸著 失語症の障害メカニズムと訓練法 新興医学出版社 SLTA 標準失語症検査 マニュアル 鈴木 勉、綿森淑子著 失語症の訓練教材 三輪書房 小嶋 知幸監修 なるほど失語症の評価と治療 金原出版株式会社 鹿島 晴雄 種村 純 編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション:前期の復習 知識確認 臨床の流れ(臨床で考える道筋をつける)				前期資料の復習をしておく。	
	2	失語症の鑑別診断 失語症とその他の障害				関連疾患について内容を確認しておく。	
	3	失語症言語治療の諸理論 失語症言語治療の理論と技法				各種治療について概要を復習しておく。	
	4	失語症検査結果の解釈 障害メカニズムの推定 失語症検査結果の解釈 障害メカニズムの推定				失語症の障害メカニズムについて復習しておく。	
	5	失語症検査結果の解釈 障害メカニズムの推定 失語症の障害内容別治療				失語症の障害メカニズムについて復習しておく。	
	6	構音プログラム障害型 音韻想起障害型 症例検討				テキストの該当項の内容の復習と事例の訓練展開を確認しておく。	
	7	音韻配列・把持障害型 語彙・意味処理障害型 症例検討				テキストの該当項の内容の復習と事例の訓練展開を確認しておく。	
	8	複合障害型(ウェルニッケ失語 混合型失語) 症例検討				テキストの該当項の内容の復習と事例の訓練展開を確認しておく。	
	9	個人訓練 訓練計画の立案				失語症の訓練教材の該当項を読んでおく。	
	10	集団訓練 訓練計画の立案				失語症の訓練教材の該当項を読んでおく。	
	11	教材の選択 個人訓練 訓練の実際				事例内容と失語症の訓練教材の該当項を読んでおく。	
	12	訓練の実際 訓練の実際				事例内容と失語症の訓練教材の該当項を読んでおく。	
	13	失語症の経過 症例検討				事例内容と失語症の訓練教材の該当項を読んでおく。	
	14	地域リハビリテーション 失語症者の社会復帰				テキストの該当項の内容を読んでおく。失語症友の会のHPを確認しておく。	
15	後期のまとめ				事例検討の評価から訓練の分析について記述事項を復習する。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				60%
	定期試験(実技)	○	○	○			20%
	小テスト・レポート	○	○				20%
履修上の注意	SLTA 標準失語症検査 マニュアル						

科目名	高次脳機能障害Ⅲ						
科目名(英)	Higher brain dysfunction Ⅲ						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	三田 智巳		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	高次脳機能障害の検査や訓練立案ができる。症例レポートの作成法を学び、実習に生かすことができる。国家試験に向け知識の定着を図る。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				レポートを書くことができる。	
	○					検査について説明できる。	
	○	○				国家試験問題を解くことができる。	
	○					訓練立案ができる。	
テキスト・教材 参考図書	高次脳機能障害ポケットマニュアル 第3版 (医歯薬出版株式会社) 高次脳機能障害のリハビリテーション ～実践的アプローチ～ 第3版(医学書院)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	記憶検査(三宅式記憶検査、S-PA,WMS-R)			Classiによる予習。		
	2	記憶検査(WMS-R、等)			Classiによる予習。		
	3	記憶検査(リバーミード行動記憶検査、等)			Classiによる予習。小テスト予習。		
	4	遂行機能障害の検査(WCST、BADS等)			Classiによる予習。		
	5	失行の検査(WABの一部、SPTA)			Classiによる予習。小テスト予習。		
	6	失認の検査(VPTA)			Classiによる予習。		
	7	COGNISTAT 認知機能検査,MoCA-J軽度認知障害スクリーニング等、実施方法			Classiによる予習。小テスト予習。		
	8	Vineland II実施方法					
	9	CATの実施方法			小テスト予習。		
	10	高次脳機能障害の訓練概要					
	11	注意障害の訓練、記憶障害の訓練、失行・失認の訓練			小テスト予習。		
	12	半側空間無視・遂行機能障害の訓練、認知症の訓練					
	13	STAD スクリーニング検査 実技方法			小テスト予習。		
	14	STAD スクリーニング検査 模擬症例			小テスト予習。		
15	まとめ						
評価方法	成績処理方法: 1.小テスト7回。クラッシー7回。等 2.定期試験 3. レポート 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				60%
	小テスト・クラッシー	○					20%
	レポート	○	○				20%
履修上の注意							

科目名	言語発達障害Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	福島 志津		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	自閉症スペクトラムの障害(ASD)の基本的特性と臨床像を理解し、評価および支援の方法を理解する						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				ASD児が利用できる医療、福祉サービスについて説明できる	
	○	○	○			ASD児を診断するための評価を実施できる	
	○	○	○			評価を基に訓練計画を作成できる	
	○	○				ASD児の各年代の問題・課題・対応について述べる事ができる	
テキスト・教材 参考図書	自閉スペクトラム症の理解と支援 本田 秀夫・著(星和書店) 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版(医学書院)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	前期の復習				前期試験範囲を復習し、解らないところは書き出して おく	
	2	ASD児の相談機関について				テキストを読んで予習をしておく。授業後は復習を しておく。	
	3	ASD児の相談・評価・診断・訓練・支援の流れ				テキストを読んで予習をしておく。授業後は復習を しておく。	
	4	ASD児が利用できる福祉サービス				テキストを読んで予習をしておく。授業後は復習を しておく。	
	5	年代別の問題と支援(乳幼児期)				テキストを読んで予習をしておく。授業後は復習を しておく。	
	6	年代別の問題と支援(幼児期)				テキストを読んで予習をしておく。授業後は復習を しておく。	
	7	年代別の問題と支援(児童期)				テキストを読んで予習をしておく。授業後は復習を しておく。	
	8	年代別の問題と支援(青年期以降)				テキストを読んで予習をしておく。授業後は復習を しておく。	
	9	家族支援(兄弟児支援も含む)				テキストを読んで予習をしておく。授業後は復習を しておく。	
	10	検査演習(WPPSI)				事前に検査マニュアルを読んでおく	
	11	検査演習(WPPSI)				事前に検査マニュアルを読んでおく	
	12	グループワーク(模擬症例の評価・訓練内容立案)				グループワークで検討したいことをピックアップして おく	
	13	グループワーク(模擬症例の評価・訓練内容の発表)				グループワークで検討したいことをピックアップして おく	
	14	年間のまとめ①(ASDの定義、評価、訓練計画、などの一連の 流れを整理する)				まとめのワークシートを仕上げる	
15	年間のまとめ②(ASDの定義、評価、訓練計画、などの一連の 流れを整理する)				まとめのワークシートを仕上げる		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				75%
	小テスト	◎	◎				15%
	実技レポート	○	◎	○			10%
履修上の注意							

科目名	言語発達障害VI						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	梶原 智寿		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	発達検査の特性と理解 検査結果と評価のまとめ 発達検査より評価を行い、子どもの全体像をとらえる ITPAの特性の理解						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				言語発達障害児の評価方法について述べるができる	
	○	○				言語発達障害児の訓練・指導方法のポイントについて説明できる	
	○					ITPA言語学習能力診断検査を実施できる	
	○					ITPA言語学習能力診断検査の結果をまとめることができる	
テキスト・教材 参考図書	ITPA言語学習能力診断検査記録用紙、関連資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	評価について				資料を読んで復習する	
	2	評価のまとめ方				資料を読んで復習する	
	3	訓練の適応について				資料を読んで復習する	
	4	〃				資料を読んで復習する	
	5	面接から評価までの流れ				資料を読んで復習する	
	6	訓練・指導について				資料を読んで復習する	
	7	〃				資料を読んで復習する	
	8	復習				評価・訓練についてポイントをまとめる	
	9	ITPA下位検査の実施方法と採点法(演習)				検査の関連資料を読んでおく	
	10	〃				検査の関連資料を読んでおく	
	11	得点の記録とプロフィール線の書き方				記録方法について復習する	
	12	ITPAの概要				検査の関連資料を読んでおく	
	13	結果の解釈とプロフィールにおける障害パターン				検査の関連資料を読んでおく	
	14	復習				ITPAの概要、検査の実施方法についてまとめておく	
15	まとめ				定期試験範囲のまとめをする		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				100%
履修上の注意							

科目名	音声障害						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	佐藤 伸宏		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において 言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	音声治療に携わる言語聴覚士に必要な条件(臨床に対する考え方、耳鼻咽喉科その他の医師との連携、言語聴覚士としての能力)を理解する。音声治療の実際について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				喉頭の解剖においてそれぞれの部位の名称と働きを説明できる。	
	○	○				呼吸の生理と発声のメカニズムについて説明することができる。	
	○	○				音声障害疾患について発生原因および症状について説明することができる。	
	○	○				音声の評価を遂行することができる。	
	○	○				音声評価診断を行いその症状にあった治療を選び実施することができる	
テキスト・教材 参考図書	建帛社 言語聴覚療法シリーズ「改定 音声障害」医歯薬出版(株) 新編 声の検査法						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	音声障害概論			配布プリントを使用して復習しておく		
	2	喉頭の解剖、呼吸生理			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	3	喉頭の解剖、呼吸生理			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	4	発声の仕組(正常発声)			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	5	発声の仕組(正常発声)			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	6	音声障害疾患の分類			配布プリントおよび教科書について復習しておく		
	7	音声の評価			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	8	音声の評価			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	9	音声治療			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	10	音声治療			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	11	音声治療、無喉頭音声			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	12	無喉頭音声			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	13	症例検討			症例レポートの内容について調べ深めておく		
	14	症例検討			症例レポートの内容について調べ深めておく		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	機能性構音障害						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	今村 亜子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	機能性構音障害の基礎知識、構音検査の実施と分析方法を習得する、系統的構音訓練の枠組みを知り立案・実施・評価を実践できる力を身につける。関連分野の理論的背景、エビデンスに基づく臨床思考を身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			過去の履修した音声学の知識を構音障害臨床との関連について説明できる。		
	○	○			機能性構音障害の定義とその症状について説明することができる。		
	○	○	○		機能性構音障害に関わる検査を選択することができ遂行することができる。		
	○	○	○		訓練プログラムの概要を理解し説明することができる。		
○	○	○		それぞれの訓練内容におけるPLAN・DO・SEEの過程を実行することができる。			
テキスト・教材 参考図書	音声表記・音素表記 記号の使い方ハンドブック 標準言語聴覚障害学「発声発語障害学」医学書院 参考文献:改訂版 機能性構音障害 改訂第3版 聴覚言語療法臨床マニュアル						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	音声学・音韻論と臨床の接点				指定教科書と過去の音声学の教科書および配布プリントを使用し復習しておく	
	2	発達途上の小児の構音障害				教科書と配布プリントを使用し復習しておく	
	3	演習) 構音類似運動検査				自主演習しておく	
	4	演習) 構音検査、結果のまとめと分析				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく	
	5	系統的構音訓練の枠組み				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく	
	6	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(単音～単音節レベル)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく	
	7	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(連続音節レベル①教材の留意点)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく	
	8	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(連続音節レベル②実施の留意点)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく	
	9	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(単語レベル)				自習演習および配布プリントを使用して復習しておく	
	10	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(句・短文レベル)				自主演習および配布プリントを使用して復習しておく	
	11	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(句・短文レベル)				自習演習および配布プリントを使用して復習しておく	
	12	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(般化アプローチ)				自主演習および配布プリントを使用して復習しておく	
	13	異常構音への対応				配布プリントを使用して復習しておく	
	14	音声知覚・音韻処理について				配布プリントを使用して復習しておく	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				85%
	小テスト	◎	◎				15%
履修上の注意							

科目名	運動障害性構音障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	瀬吉 享子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	①運動障害性構音障害についての基礎的な知識を理解するとともに、その知識を診断・治療に生かしていくことができる。②専門家として必要な態度について理解し、実行することができる。③能動的に授業参加することができ、積極性をもって遂行することができる。						
授業形式	講義:	△	演習:	実習:	実技: ○ ※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動障害性構音障害のタイプごとの発生機序および症状について説明できる。	
	○	○	○	○		運動障害性構音障害における検査についてマニュアルを使用せず実行することができる。	
	○	○				検査結果をもとに発生機序の仮説を立てながら診断することができる。	
	○	○				それぞれ症状について発生機序にあわせた訓練立案ができる。	
○	○	○			訓練手技について基本を抑えて遂行することができる。		
テキスト・教材 参考図書	ディサースリア臨床標準テキスト 西尾正輝著 医歯薬出版株式会社 言語聴覚士のための運動障害性構音障害学 廣瀬 肇ら著 医歯薬株式会社 ディサースリア検査 西尾 正輝 著 インテルナ出版 言語聴覚療法シリーズ9「運動障害性構音障害」熊倉 勇美著 建ぱく社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	講義概要、演習の進め方について タイプごとの病態特徴と重症度のまとめ			該当する教科書の内容をもとに前期内容の振り返りをしておく		
	2	言語病理学的鑑別診断・問診・スクリーニングテスト			教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしておく		
	3	ディサースリアの臨床で行う標準的検査の概要(説明) 構音検査(実技演習)			自主演習をしておく		
	4	標準ディサースリア検査結果の解釈の仕方(実技演習)発話の検査・呼吸機能標準ディサースリア検査結果の解釈の仕方(実技演習)発声機能・鼻咽腔閉鎖			教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしておく		
	5	標準ディサースリア検査結果の解釈の仕方(実技演習)口腔構音機能標準ディサースリア検査結果の解釈の仕方(実技演習)口腔構音機能			教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしておく		
	6	運動障害性構音障害の評価、検査結果のまとめ方			教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしておく		
	7	検査実技テスト:2人一組にて、テスト概要については事前に説明します。			テストの振り返りをもとに自主演習をしておく		
	8	症例を通して検査演習(結果から症状を検出する)			教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしておく		
	9	問題点の抽出および訓練立案について(グループにわかれ担当症例について)			グループごとに内容を深めておく		
	10	運動障害性構音障害の訓練法(発声発語器官運動へのアプローチ)			教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしておく		
	11	運動障害性構音障害の訓練法(発声発語へのアプローチ)			教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしておく		
	12	運動障害性構音障害の訓練法(タイプごとのアプローチ)			教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしておく		
	13	運動障害性構音障害の訓練法(訓練の立案と実施)			教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしておく		
	14	訓練実技テスト			実技テストを振り返り自主演習をしておく		
15	訓練実技テスト まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記・実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				60%
	実技テスト	○	○				10%
	小テスト・レポート	○	○				10%
履修上の注意							

科目名	嚥下障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	高津原 直樹・星子 隆裕		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	嚥下障害を持つ方の困難さを理解し、原因、状態から臨床仮説を行い、支援する流れを学ぶ。検査は観察と測定を同時に行うことであり、手技のみでは情報を得ることができないということを念頭に置き、反復した練習を行う。評価結果の言語化は講義ごとのミニレポートを通して事実と考察を明確にすることを学ぶ。訓練実技においては、訓練効果の確認ができるレベルを目標とする。						
授業形式	講義:	△	演習:	実習:	実技:	○ ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				摂食嚥下評価における観察事項、方法を述べるができる。	
			○	○		摂食嚥下評価を模擬的に実施できる。	
	○	○				摂食嚥下訓練の目的と方法、注意事項を述べるができる。	
			○	○		摂食嚥下訓練を模擬的に実施できる。	
	○	○				模擬患者の情報を整理し、必要な支援方法を模擬的に試案することができる。	
テキスト・教材 参考図書	標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 嚥下障害 ポケットマニュアル第3版 医歯薬出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	嚥下障害に対する評価・治療 正常と異常を見比べながら評価用紙に記録できる。				資料を基に模擬演習を行うこと。疑問点は次回の講座で必ず確認すること。	
	2	評価前の情報収集とポイント:摂食嚥下評価～ベッドサイドスクリーニング～ 評価の項目を挙げ、患者様役を評価できる。				資料を基に模擬演習を行うこと。疑問点は次回の講座で必ず確認すること。	
	3	簡易評価実習～車椅子・座位でのスクリーニングと病態別に対する工夫～ スクリーニング検査を実施し問題点を抽出できる。				資料を基に模擬演習を行うこと。疑問点は次回の講座で必ず確認すること。	
	4	嚥下造影検査(VF)所見のポイント VFで健常と障害の区別がつくようになる。VFに映る部位の名称を言えるように				該当教科書のの該当部分を復習する。	
	5	嚥下内視鏡検査(VE)のポイント 口腔衛生と嚥下、嚥下障害の実際 実習に向けてより具体的な嚥下像を捉えることができる。				該当教科書のの該当部分を復習する。	
	6	嚥下障害を持った方に私たちはどのような支援ができるのか? 嚥下障害を持った方に私たちはどのような支援ができるのか?				資料を基に模擬演習を行うこと。疑問点は次回の講座で確認すること。	
	7	嚥下障害の個別的特長を把握し、その方に適した支援方法を見出せるのか? 評価分析から治療法を選択する				資料を基に模擬演習を行うこと。疑問点は次回の講座で確認すること。	
	8	知識と技術とマインドのバランスを持つ(実技試験) 治療技術実技				資料を基に模擬演習を行うこと。	
	9	知識と技術とマインドのバランスを持つ(実技試験) 治療技術実技				資料を基に模擬演習を行うこと。	
	10	STとしての関わりには限界がある。医師の治療行為を理解できるのか? チームアプローチおよび外科的介入				該当教科書のの該当部分を復習する。	
	11	STとしての関わりには限界がある。コメディカルスタッフに何をたよるのか? 栄養療法と食事介助				該当教科書のの該当部分を復習する。	
	12	治療以外の支援はあるのか? 口腔ケアと活動支援				該当教科書のの該当部分を復習する。	
	13	摂食嚥下障害を持った方は何を食えることができるのか? 嚥下食と主観的体験について考える				資料を基に模擬演習を行うこと。疑問点は次回の講座で核にすること。	
	14	評価実習前に評価から治療理論と人としての背景をどこまで考えられるか? ペーパー症例を用いたグループワーク				該当教科書のの該当部分を復習する。	
15	実技試験 定期試験						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記・実技)	○	○				60%
	小テスト・レポート		○	○	○		40%
履修上の注意							

科目名	吃音								
科目名(英)									
単位数	2	時間数	60時間	担当者	久保 健彦				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年								
授業概要	吃音について正しい知識と最近の研究動向を学ぶ。吃音臨床に関する検査法、指導・訓練法を知る。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				吃音臨床の歴史および原因論の変遷について説明することができる。			
	○	○				吃音を引き起こす諸要因と吃音のさまざまな症状について説明することができる。			
	○	○				吃音のライフサイクル上の問題とその支援について説明することができる。			
	○	○		○		吃音の検査・評価が行え、その内容を説明することができる。			
○	○		○		吃音の訓練技法について説明でき、実施することができる。				
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚療法シリーズ13「改訂 吃音」 都築澄夫 編著, 建帛社, 2008 間接法による吃音訓練 都築澄夫 編著, 三輪書店, 2015 エビデンスに基づいた吃音支援入門 菊池良和著, 学苑社, 2012								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	吃音とは 何か	オリエンテーション 基礎知識(原因論など)			教科書と配布プリントを使用して復習しておく			
	2		基礎知識(不安、獲得性吃音、クラタリング) 基礎知識(歴史)			教科書と配布プリントを使用して復習しておく			
	3		基礎知識(ライフサイクル上の吃音問題と支援) 基礎知識(サブタイプ、症状分類)			教科書と配布プリントを使用して復習しておく			
	4	訓練法概説	訓練法① 訓練法②			教科書と配布プリントを使用して復習しておく			
	5	検査法	吃音検査法①			検査技法の自主演習をしておく			
	6		吃音検査法②			検査技法の自主演習をしておく			
	7		吃音検査法③			検査技法の自主演習をしておく			
	8		吃音検査法④			検査技法の自主演習をしておく			
	9	指導・訓練法 (症例含む)	流聴性形成訓練①			訓練技法の自主演習をしておく			
	10		流聴性形成訓練②			訓練技法の自主演習をしておく			
	11		吃音軽減訓練 統合的訓練			訓練技法の自主演習をしておく			
	12		遊戯療法など 環境調整法①			訓練技法の自主演習をしておく			
	13		環境調整法②			訓練技法の自主演習をしておく			
	14	合併例	RASS(吃音年表のメンタルリハーサル法など)①			訓練技法の自主演習をしておく			
15	RASS(吃音年表のメンタルリハーサル法など)②			訓練技法の自主演習をしておく					
16	実際の臨床	訓練で用いることば遊びなど			教科書と配布プリントを使用して復習しておく				
17		発達障害や構音障害の合併例①			教科書と配布プリントを使用して復習しておく				
18		発達障害や構音障害の合併例②			教科書と配布プリントを使用して復習しておく				
19		様々な臨床・症例①			教科書と配布プリントを使用して復習しておく				
20	まとめ	様々な臨床・症例②			教科書と配布プリントを使用して復習しておく				
21		様々な臨床・症例③			教科書と配布プリントを使用して復習しておく				
22		様々な臨床・症例④			教科書と配布プリントを使用して復習しておく				
23	まとめ				これまでの配布プリントについて概要をまとめておく				
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	○	○				80%		
	小テスト・レポート	○	○		○		20%		
履修上の注意									

科目名	聴覚障害Ⅲ								
科目名(英)									
単位数	1	時間数	30時間	担当者	城丸 みさと				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年								
授業概要	①聴器の発生・生理を理解し、聴覚障害の機序を理解する。②新生児～幼児を対象とする聴覚検査の対象年齢・検査目的・原理を理解し、検査方法を習得する。③聴覚補償機器の選択と発達を理解する。④聴覚障害の種類と程度、発症時期などから訓練を立案計画できるようになる。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				聴覚器の発生と生理を説明することができる。			
	○	○				聴覚障害の機序を説明することができる。			
		○				新生児～幼児を対象とする聴覚検査を概説し、模擬的に実施できる。			
	○	○				障害や発達に合わせた聴覚補償機器を選択することができる。			
○	○				障害の種類、程度、発症時期から訓練を模擬的に立案することができる。				
テキスト・教材 参考図書	建帛社「改訂 聴覚障害Ⅰ」、「聴覚障害Ⅱ」 山田弘幸 南山堂「聴覚検査の実際」 日本聴覚医学会 参考文献: 文光社「イラスト 耳鼻咽喉科」、森光 保 ぶどう社「きこえの世界へ」 金山千代子、今井秀雄								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	講義 聴器の発生・解剖(復習)、過去5年間の国家試験と照合				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	2	講義 難聴のリスクファクターと疾患、症候性難聴				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	3	講義 乳幼児の聴覚検査Ⅰ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	4	演習 乳幼児の聴覚検査Ⅱ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	5	講義 聴覚障がい児の療育・指導の流れ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	6	講義 難聴の程度とその特徴、聴覚障がいゲストスピーカーによる講話				レポート			
	7	G演習 0～1歳児の療育 (教材作製、ロールプレイ)				課題作成			
	8	G演習 2～3歳児の療育 (" 、 ")				課題作成			
	9	G演習 4歳～就学前の療育 (" 、 ")				課題作成			
	10	講義 学童期の教育・訓練				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	11	講義 ライフステージにおける問題とその指導				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	12	講義 ライフステージにおける問題とその指導				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	13	講義 国家試験 過去3年分の傾向(演習)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	14	講義 まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
15	講義 まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。				
評価方法	(1)レポートを1回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○	○				90%		
	レポート	○	○				10%		
履修上の注意									

科目名	聴覚障害Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	白石 君男		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	補聴器の仕組みと機能および電気音響規格を理解し、聴覚障害者に補聴器を適切に適合する方法を説明できる。また人工内耳の仕組みと適応範囲を理解し、リハビリテーションについて説明できる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				補聴器の構造と機能を説明できる。	
	○	○				人工内耳の構造と機能を説明できる。	
	○	○				補聴支援システムを概説できる。	
	○	○				補聴器人工内耳の検査を概説できる。	
	○	○				補聴器人工内耳の調整について概説できる。	
テキスト・教材参考図書	特になし(講義中に資料配布) 参考文献:1)改訂第2版補聴器フィッティングの考え方(小寺一興、診断と治療社) 2)21世紀耳鼻咽喉科 補聴器と人工内耳(野村恭也 他 総編集、中山書店)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	補聴器のための音響学			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	2	補聴器の型による分類と特徴			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	3	補聴器の仕組み(マイクロホン、アンプ、イヤホン)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	4	補聴器の機能(出力制限装置など)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	5	補聴器の規格の見方と測定			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	6	補聴器の増幅方式(リニアとノンリニア)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	7	補聴器の調整(音質調整、ベント、ダンパー、イヤモールド)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	8	種々の補聴器フィッティングの方法			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	9	補聴支援システム(FM補聴器と赤外線補聴器)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	10	人工内耳の仕組み(コード化法)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	11	人工内耳の適応(幼児と大人)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	12	人工内耳のための検査			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	13	人工内耳のリハビリテーション			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	14	まとめ			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
	15	まとめ			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い個所を見つけ、次回授業の際に提出する。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	臨床技術学 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	小川 春美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚療法の実際を理解するために、病院見学や演習を通して臨床での言語聴覚士の仕事を学ぶ。 ・言語聴覚療法の臨床現場の概要について学び、STの役割を説明できるようになる。 ・1日見学を通して、観察した事項を文章表現できる。 						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語聴覚療法の臨床現場の概要を学び、その体系を理解することができる	
	○	○				臨床現場に関する言語聴覚士の役割を理解することができる	
		○	○			見学内容を言語聴覚療法と関連付けて理解することができる	
	○	○				観察した内容を言語聴覚療法と関連付けて説明することができる	
			○			安全に配慮して見学を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士テキスト 第2版 医歯薬出版 新編言語治療マニュアル 医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	病院見学事前オリエンテーション				配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	2	病院見学				配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。オリエンテーションの内容を復習し確認しておくこと。	
	3	病院見学				配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。レポート作成準備	
	4	病院見学事後セミナー				見学資料を復習し確認しておくこと。レポート作成課題	
	5	演習 挨拶 電話連絡 施設内での振る舞い				配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。演習内容を再度行うこと。	
	6	演習 実習でのコミュニケーション				演習内容を復習しておく。演習結果をまとめ、レポートを作成する。	
	7	1日見学実習事前セミナー①				配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。1日見学実習前セミナーの内容について復習しておくこと。	
	8	1日見学実習事前セミナー②				配布資料の疑問を整理しておくこと。1日見学実習前セミナーの内容について復習しておくこと。	
	9	1日見学実習事前セミナー③				見学施設に関する疑問を整理しておく。1日見学実習前セミナーの内容について復習しておくこと。	
	10	1日見学実習				見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。	
	11	1日見学実習				見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。	
	12	1日見学実習				見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。	
	13	1日見学実習				見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。	
	14	1日見学実習および演習事後セミナー①				見学資料を復習し確認しておくこと。見学内容を振り返り、疑問を整理しておくこと。	
15	まとめ				レポート課題		
評価方法	(1)定期試験(実技)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)	○		○	○		60%
	レポート	◎	◎				40%
履修上の注意							